

物価高

コロナ禍や物価高乗り越え
日本を再生

コロナ禍では1人一律10万円の「特別定額給付金」の実現や中小企業などの資金繰りを支援する実質無利子・無担保融資の拡充に奔走。

物価高対策では、自治体が独自施策に活用できる「地方創生臨時交付金」1・2兆円の積み増しを実現し、LPガス（プロパンガス）料金の負担軽減などに活用できるようにしました。荒川区ではプレミアム付きお買い物券、足立区ではキャッシュレス決済のポイント還元などの消費喚起策が実施される予定です。

防災
減災水害リスクを大幅軽減
荒川調節池の整備推進

豪雨時に氾濫・浸水リスクがある荒川、隅田川。特に荒川は、2019年10月の台風19号で氾濫危険水位に迫りましたが、埼玉県にある荒川第一調節池（容量3900万立方メートル）で過去最大の3500万立方メートルの水を貯留するなどし、氾濫を防ぎました。

党国土交通部長として、調節池の事前放流で貯水容量を増やすよう政府に提案し、実現。第二・三調節池の早期整備に道筋を付け、完成箇所から段階的な活用を可能にしました。

子育て

未来を見据え
子育て支援 少子化対策をリード

財務副大臣として、日本の未来を見据えた子育て支援・少子化対策の省内議論をリードし、こども・子育て予算の大幅拡充を推進。先行して実施されている出産育児一時金の増額（42万円→50万円）や妊娠・出産時の経済的支援、産前からの伴走型相談支援に加え、児童手当の所得制限撤廃や高校生世代までの対象拡大などの切れ目ない支援の実現に道を開きました。

また、都議会公明党と連携し、都内において高3生世代までの医療費無償化も実現しました。（荒川区・足立区では所得制限なし）

この度は「岡本みつなり励ます会」にご入会いただき、厚く御礼を申し上げます。

2012年の初当選以来、一貫して生活現場を歩き、窮状に向き合いながら、政策を立案・実現してまいりました。「経済再生」「防災・減災」「福祉」施策の推進が私のライフワークです。

いまだ長引くコロナ禍や物価高騰の影響、自然災害の猛威から住民生活と地域経済を守ることは政治家の使命です。「日本を、もつと前へ」。活力と魅力あふれる日本再生を誓い、一人を大切に政治を貫いてまいります。

岡本
三成

略歴

党国際委員長、同国会対策委員長代理、同東京都本部代表代行。外務大臣政務官や財務副大臣を歴任。創価大学卒。米ケロッグ経営大学院修了（MBA取得）。衆院当選4回。58歳。

私も
応援
します

国際感覚に優れ、金融・経済にも精通する岡本さんは、荒川区のさらなる発展に必要な不可欠な政治家です。公明党の区議や

西川太一郎
荒川区長

都議と同じく、丹念に現場を回中で、荒川の水害対策や物価高対策などにも尽力されています。

区民の命と暮らしを守るため、誰よりも汗を流してくれると期待しています。

災害対策は区民の命と財産を守る最重要課題の一つです。岡本さんは、国土交通大臣と密接に連携し、調節池整備や堤防強化など荒川の氾濫防止に大きく貢献されています。

竹ノ塚駅付近鉄道高架化の実現、高齢者福祉や子育て支援の推進等、公明党の成果は目覚ましく、今後も区内活性化へのご尽力に大いに期待いたします。

近藤やよい
足立区長

岡本みつなりって、こんな人

岡本みつなり
1分紹介動画



LINE友だち
登録募集中



貧しくとも懸命に学び
語学力を磨いた青年時代



佐賀県で小さな建設会社を経営する両親のもと、4人きょうだいの末っ子として誕生。**不安定な経営が続き、苦しい生活の中でも必死に働く父と、常に笑顔を保ちながら母の姿を見て育ちました。**「母を少しでも喜ばせたい」と幼少期から懸命に勉学に励み、経済苦の中でも両親が力強く背中を押してくれ、きょうだいでただ一人の大学生として創価大学へ進学。

在学中は風呂無し・共同トイレの四畳一間で苦学を重ねました。努力の末に、英国の名門グラスゴー大学へ留学し、語学と国際感覚を養成。「いつか世界で活躍したい」と夢を抱き、高い志を持ったかけがえない仲間と切磋琢磨したことが人生の土台となっています。

世界的金融機関に就職
国際経済の舞台で活躍



大学卒業後は、米国の世界的金融機関「シティバンク」に就職。必死に働き続けた両親の姿に自身を重ねながら仕事にまい進するなか、**9万人の従業員から1人だけ選ばれる「ディール・オブ・ザ・イヤー」を受賞**するなど多くの実績を築きました。

その後、米国のケロッグ経営大学院で経営学修士号(MBA)を取得し、世界最大級の金融機関「ゴールドマン・サックス証券」に転職。

財政再建に悩む欧州の国や企業、日本国内の自治体の財政改革のほか、住宅ローン「フラット35」の創設に尽力するなど国内外の事業構築・再建に力を注ぎました。ダイナミックな世界経済の最前線で活躍しました。

「9・11」契機に政治の道へ
財務副大臣など歴任



転機は、2001年9月11日に発生した米国同時多発テロ。職場から数百メートル先の世界貿易センタービルに旅客機が突っ込み、混乱の中で必死に避難するも、多くの尊い命が奪われる瞬間を目の当たりにしました。11年の東日本大震災では、当時の政権の稚拙な対応に憤慨。

こうした経験から、**「憎しみ合う社会を変え、安全・安心の社会をつくりたい」と強く願い、政治の道へ進むことを決意し、12年の衆院選で初当選。**

以来、外務大臣政務官、党国土交通部長、財務副大臣など要職を歴任し、**経済再生や防災・減災対策、子育て支援、新型コロナ対策などで数々の実績を築いてきました。**

「小さな声から政策実現」 交通系ICカードに 障がい者割引を適用

電車やバスに乗る際、交通系ICカードをタッチして運賃を支払うサービスは、今や当たり前の時代に。しかし、**関東圏で障がいのある方が「障がい者割引」を受ける場合、駅の窓口で障害者手帳の提示が必要**で、出場に時間がかかる上、手や腕が不自由な人にとって身体的負担になっていました。

「窓口での手間をなくしてほしい」——。岡本は2019年、埼玉県の公明市議の紹介で障がいのある女性から切実な声を聴き、改善の必要性を痛感しました。実態を調べると、関西圏の私鉄・バス事業者は、すでに「障がい者割引」を交通系ICカードに適用していることが判明し、すぐに鉄道各社に同様の取り組みを提案。また、**党国土交通部長として、女性らを赤羽国交相(当時)に橋渡しし、共に早期実現を要請**してきました。その結果、**今年3月から関東圏でも同様の新サービスが開始**されました。

